



 **不二製油株式会社**

個人投資家向け 会社説明会

2026年6月
不二製油株式会社(証券コード:2607)

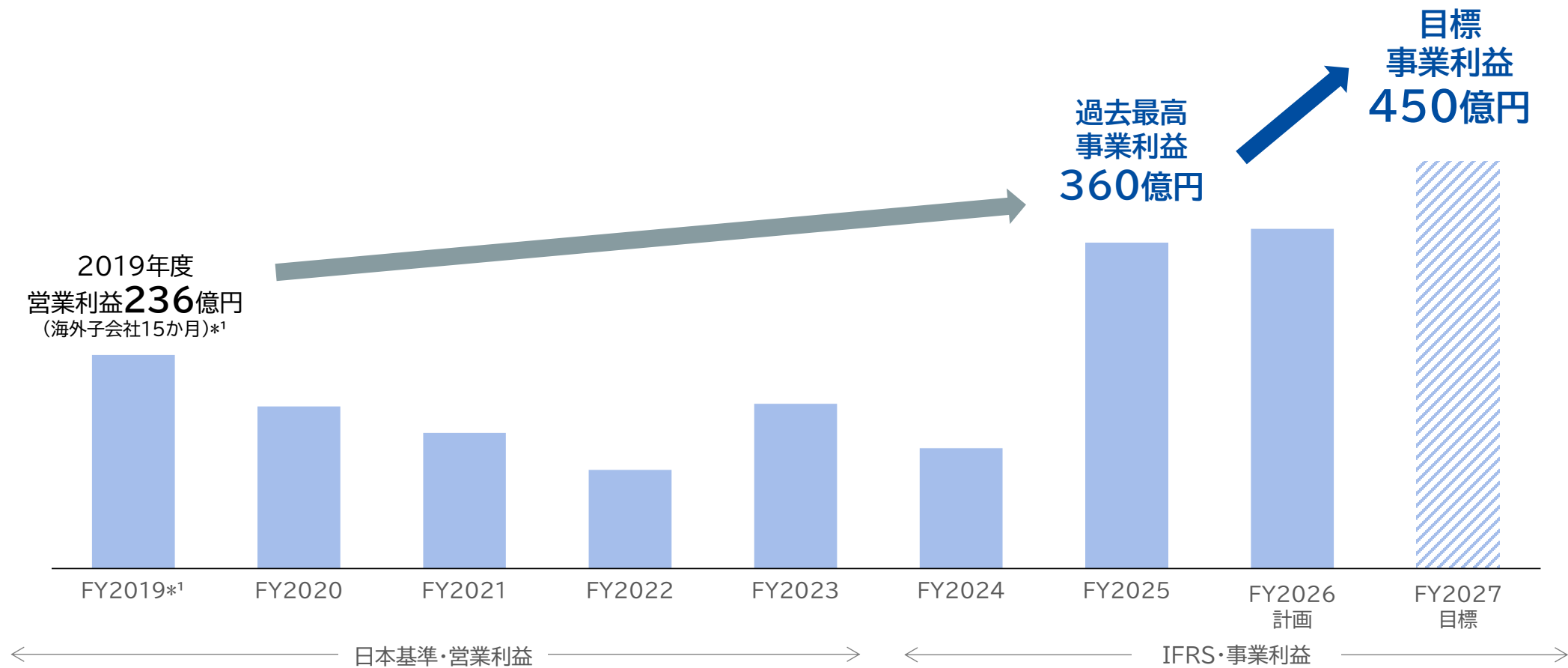
本日の説明会でお伝えしたいこと

- ・不二製油は、あらゆる食シーンを支える食品中間素材メーカー。
- ・2025年度に過去最高益を達成、更なる成長を目指す。

過去最高の利益成長へ

2027年度に、事業利益450億円の達成を図る。

不二製油株式会社



2019～2023年度実績は、日本基準の営業利益。2024年度実績、2025年度計画、2027年度計画はIFRSでの事業利益。

*1 2019年度は海外グループ会社19社の決算期の変更により、当該連結子会社は2019年1月1日から2020年3月31日までの15か月決算。

*2 2025年度よりIFRSを任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

1章

不二製油のご紹介

2章

2025年度 連結業績

3章

中期経営計画(2025～2027年度)

4章

サステナブルな食の未来に向けて

1章

不二製油のご紹介

2章

2025年度 連結業績

3章

中期経営計画(2025～2027年度)

4章

サステナブルな食の未来に向けて

会社概要

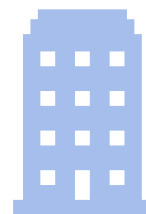
不二製油株式会社

商号	不二製油株式会社
証券コード	2607(東証プライム)
代表取締役 CEO	大森 達司
本社	大阪府泉佐野市

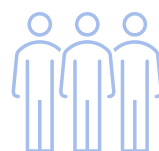


大阪府泉佐野市の本社・阪南事業所

設立
1950年



従業員
5,891人



2026年3月31日時点

業績
売上高 7,723億円
事業利益 360億円



2025年度実績、IFRS

特許取得数
3,784件



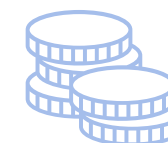
2026年3月31日までに登録された
不二製油(株)の全世界における
特許件数の合計。実案・意匠を含む。

海外売上高比率
69%



2025年度実績、IFRS

時価総額
約3,100億円



2026年5月21日時点

株主優待・配当

不二製油株式会社

優待品

チョコレートやプラントベース製品など当社グループ関連製品をお届け。

保有条件:100株以上を半年以上継続保有

対象株主:同年度の9月末日および3月末日を基準日とする
株主名簿に同一株主番号・100株以上保有で記載された株主様



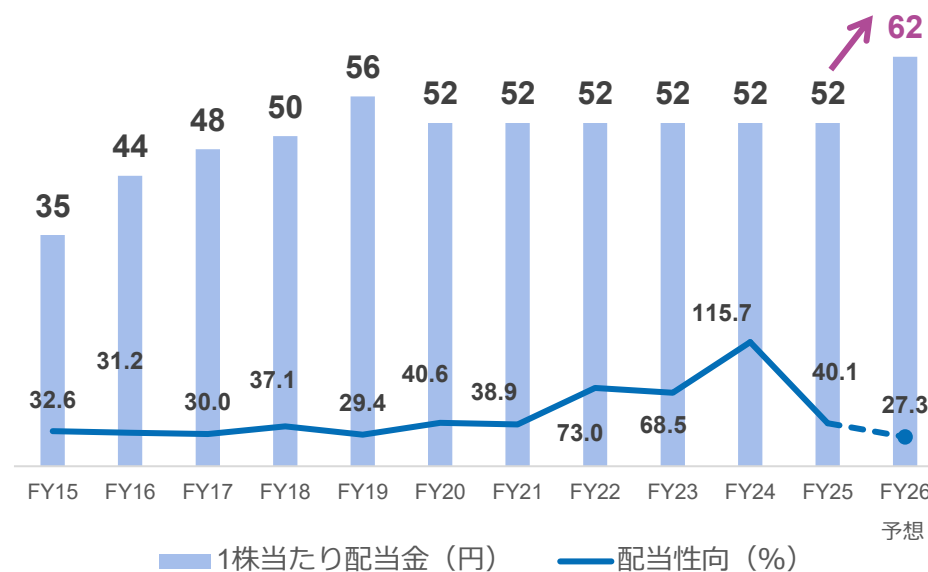
*詳細は当社HP IR情報「個人投資家のみなさまへ」をご覧ください
<https://www.fujioil.co.jp/ir/stock/benefit/>

配当

配当方針

- ・ 配当性向30%~40%
- ・ 安定的かつ継続的な配当を実施

利益伸長に伴い、2026年度は年間10円の増配を計画。

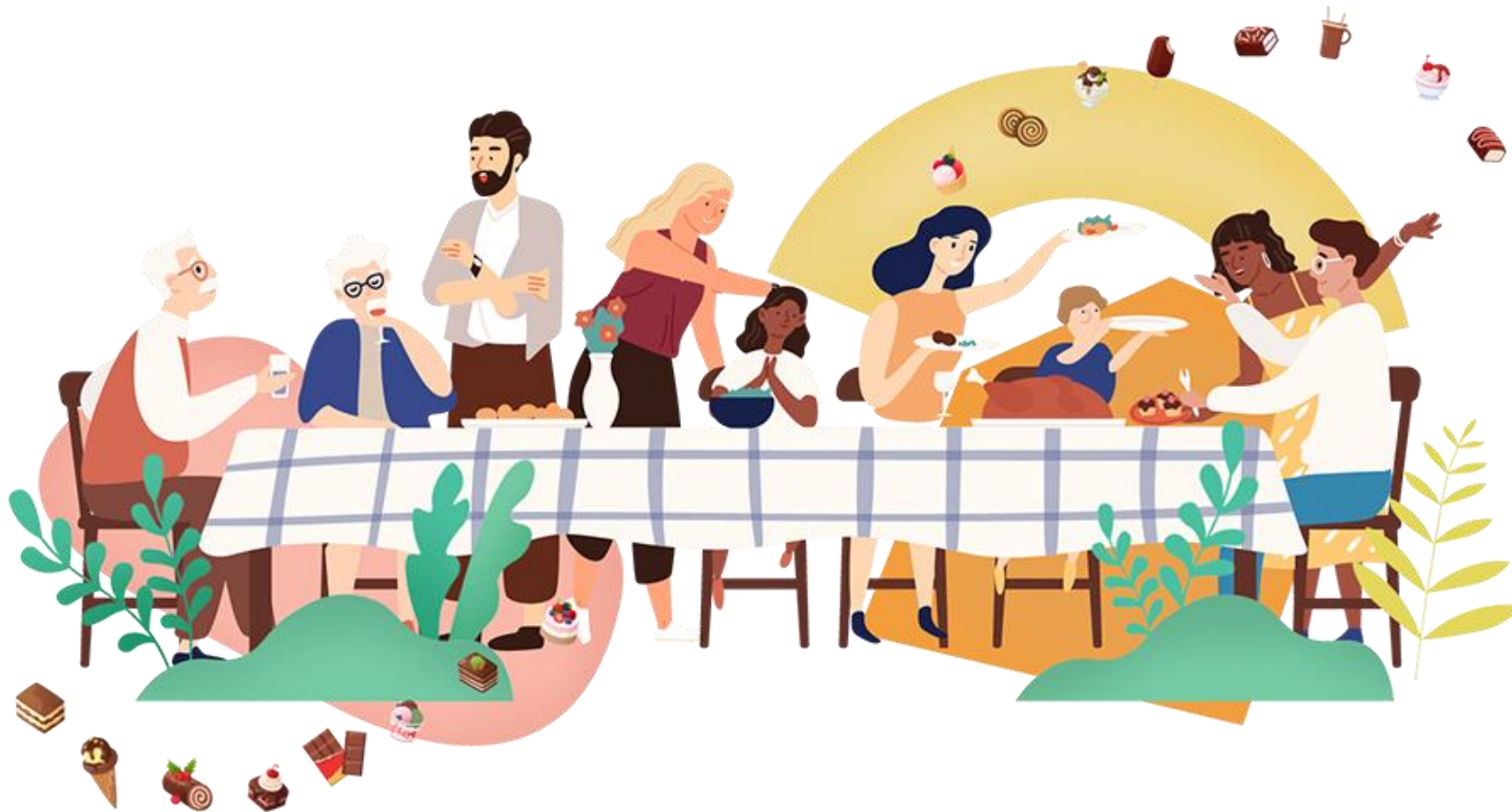


*2026年度は予想値

*2024年度配当性向は、IFRSベースに組み替えて算出。

会社紹介動画

不二製油株式会社



<https://api01platform.stream.co.jp/apiservice/plt3/NDU1MA%3d%3d%23MTI4%23280%23168%230%233FE2A0D9E400%23MDoyOjc6YTpmOzEwOzEwOzEw%23>

不二製油の歴史

不二製油株式会社

「人マネをしていては道はない」独自の開発を重視。

最後発の油脂会社として創業

原料統制下で油脂原料が不足、技術も設備もなく、
厳しい事業環境。



1950年創業当時の不二製油

「人マネをしていては道はない」

独自の研究開発を重視。当時の日本で食用の実用化が
なされていなかった南方系油脂に着目。



二代目社長
西村 政太郎



パーム

日本初の多くの製品を創出

研究開発・製造技術を培い、多くの製品を生み出し、日本の食文化に貢献。

不二製油株式会社



チョコレート用油脂



高脂肪クリームが無菌充填



コーティングチョコレート



植物性チーズ
ティラミスブームを巻き起こす

主要原料

不二製油

顧客

消費者



パーム油



カカオ



大豆

B to B の食品中間素材メーカー

植物性油脂事業



食用加工油脂



チョコレート用
油脂

業務用チョコレート事業



チョコレート

乳化・発酵素材事業



クリーム



フィリング

大豆加工素材事業



大豆たん白素材



機能剤

食品メーカーなど

- ・飲料メーカー
- ・製菓メーカー
- ・製パンメーカー
- ・リテール
- ・外食チェーン
- ・学校給食

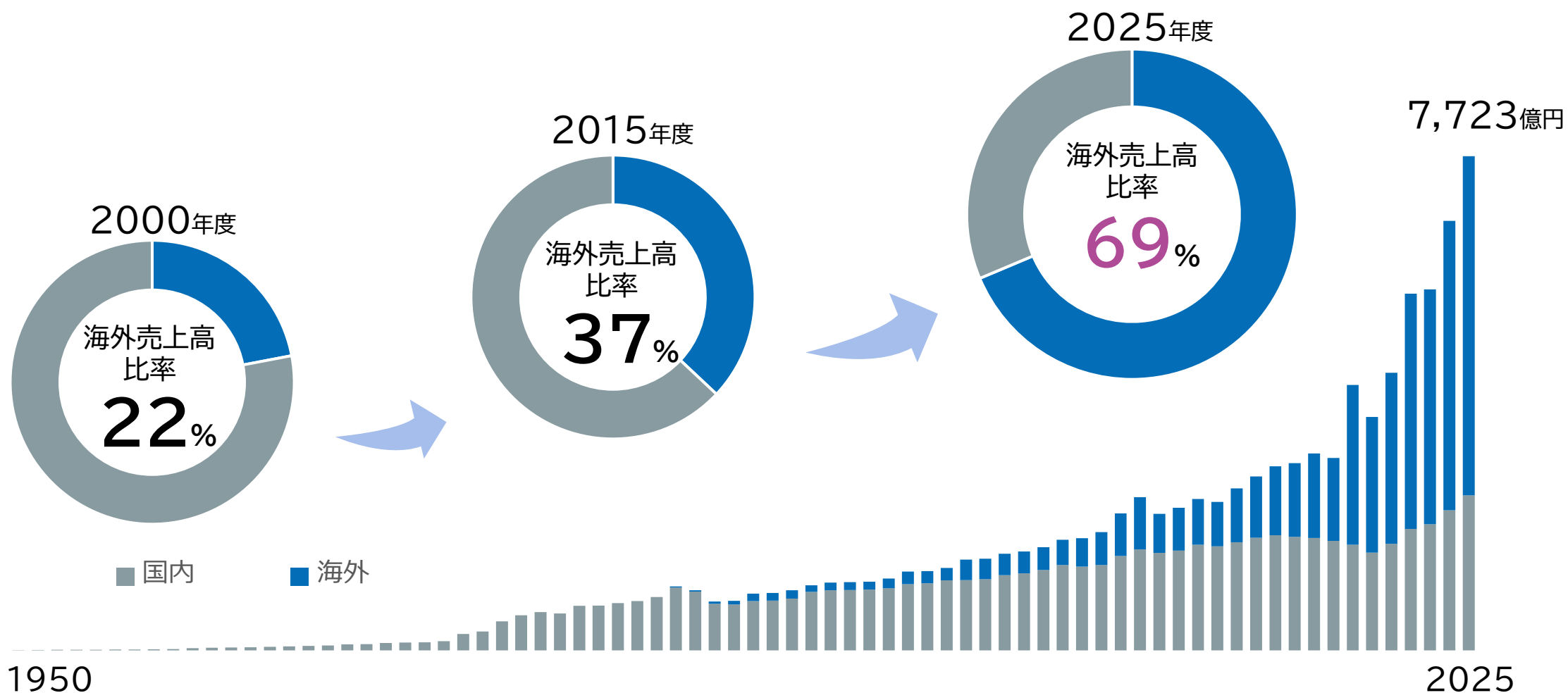
etc.



海外事業を拡大

不二製油株式会社

1980年代より本格的に海外進出。2010年以降、M&Aを進め海外事業を拡大。





植物性油脂事業

売上高 **2,711** 億円 事業利益 **334** 億円

シェア
チョコレート用油脂CBE*1

日本 **1**位
世界 **トップ3**



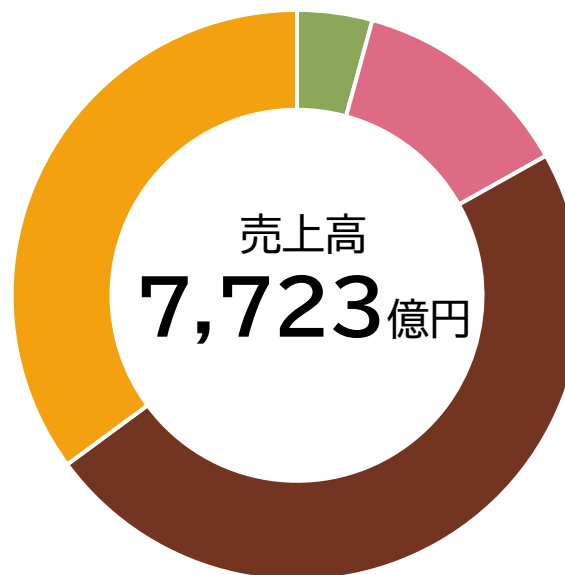
業務用 チョコレート事業

売上高 **3,709** 億円 事業利益 **24** 億円

シェア
業務用チョコレート

日本 **1**位、世界 **3**位

2025年度実績
(IFRS)



大豆加工素材事業

売上高 **329** 億円 事業利益 **▲9** 億円

シェア
水溶性大豆多糖類

日本 **1**位
世界 **1**位



乳化・発酵素材事業

売上高 **974** 億円 事業利益 **11** 億円

シェア
業務用ホイップクリーム*2

日本 **1**位

*1 Cocoa Butter Equivalent. カカオバターに似た性質を持つ代用可能なチョコレート用油脂。

*2 植物性脂肪を含むホイップクリームを指す。

不二製油の強み

不二製油株式会社

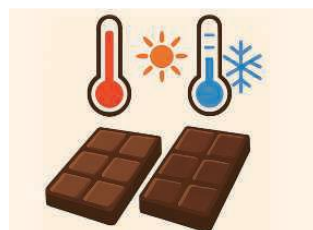
独自の事業展開が不二製油グループの強み。

油脂、チョコレートの両事業をグローバル展開

チョコレートの品質に重要な油脂に関して、自社で技術・製造設備を有するため、シナジーを発揮し、多様なチョコレート製品の展開が可能。

- ・口溶け、食感
- ・固さ
- ・見た目(光沢)
- ・保存安定性

チョコレートの「おいしさ」、「品質」に油脂技術が直結
油脂技術を活かし、顧客が要望するチョコレートを実現



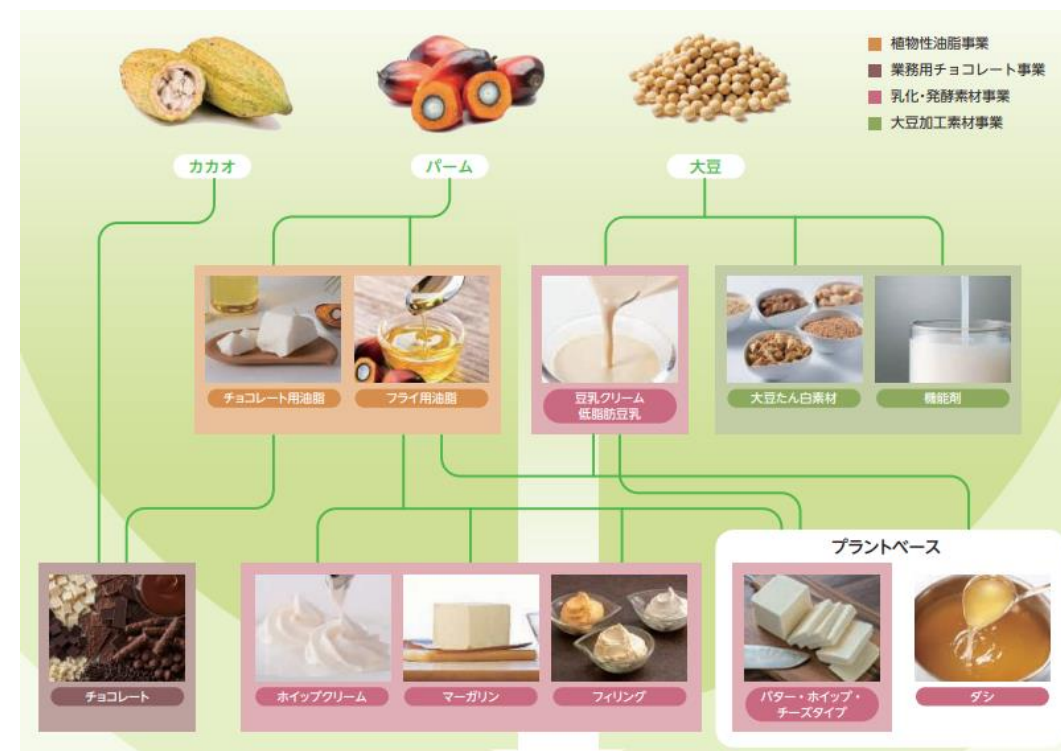
地域や季節に応じた
融点の調整



固化速度の調整による
生産効率の改善

幅広い製品ポートフォリオによる総合的な提案

パーム、カカオ、大豆を主原料として、多様な製品群を展開。顧客の要望に応じて様々な提案が可能。





チョコレート菓子
暑いと溶ける
寒いと口どけしづらい



チョコレートアイス
噛んだ時にコーティング
チョコレートが剥がれる

チョコレート用油脂の組み合わせにより
**季節・気候・食べ方に応じた
おいしさを実現**



チョコレート用油脂
(植物性油脂事業)



コンパウンドチョコレート
(業務用チョコレート事業)

ホイップクリーム
当日おいしいホイップクリームも
翌日になると、食感が変わる



油脂や乳化・発酵の技術により
みずみずしさを保つ
ホイップクリームを設計



ホイップクリーム
(乳化・発酵素材事業)

酸性乳飲料

時間がたつと、乳の成分が沈むため
長期流通が難しい



おからを原料にした機能剤により

**時間がたっても
安定した状態を保つ**



機能剤
(大豆加工素材事業)



目次

1章

不二製油のご紹介

2章

2025年度 連結業績

3章

中期経営計画(2025～2027年度)

4章

サステナブルな食の未来に向けて

2025年度 実績／事業別

不二製油株式会社

植物性油脂事業は過去最高益を更新。業務用チョコレートは業績改善傾向も、課題が残る。



植物性油脂事業

最高益
2年連続更新



業務用チョコレート事業



乳化・発酵素材事業



大豆加工素材事業



* 上記は、IFRSに基づく数値。

カカオ価格の変動

不二製油株式会社

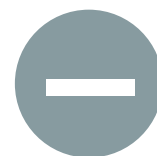
カカオ相場は2024年から2025年にかけて大きく変動し、不二製油の事業環境が変化。



参照:ICE Future U.S.



チョコレート用油脂(CBE)、
コンパウンドチョコレートの
需要の高まり



ブラマーでの
カカオ価格変動に伴う損失



チョコレート用油脂(CBE)



植物性油脂事業

不二製油株式会社

チョコレート用油脂(CBE)販売が大きく伸長し、植物性油脂事業は2年連続で過去最高益を達成。

チョコレートの主な原材料

ピュアチョコレート



ココアパウダー



砂糖



カカオバター

コンパウンドチョコレート



ココアパウダー



砂糖



カカオバター

代替可能

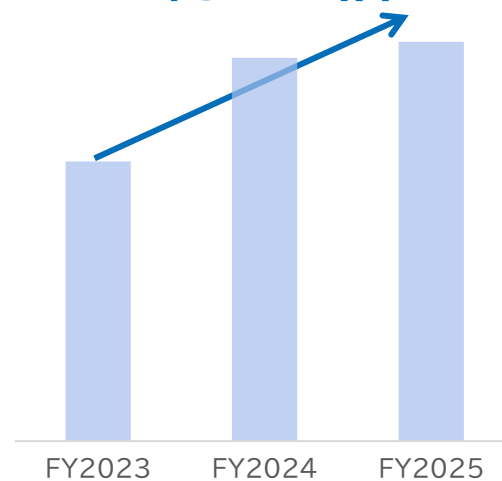


CBE*

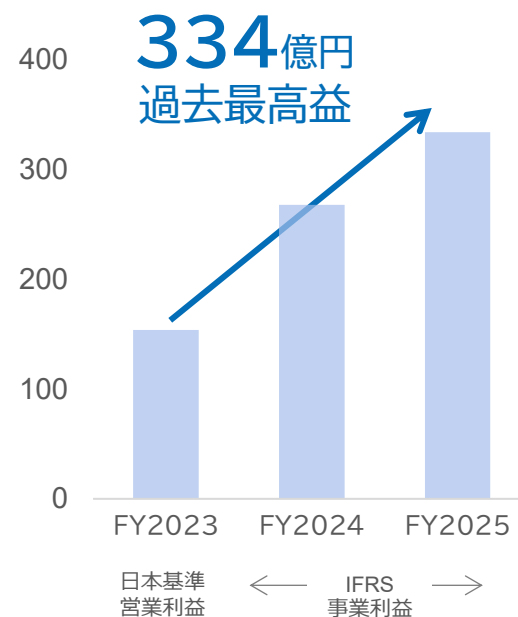
カカオバターに代替可能な
チョコレート用油脂(CBE)の問い合わせが急増

2025年度実績

CBEの販売数量
(不二製油グループ会社向けの販売を含む)
カカオ価格高騰前(FY2023)より、
約1.3倍



植物性油脂事業
利益推移



* CBE: Cocoa Butter Equivalent。カカオバターに似た性質を持つ代用可能なチョコレート用油脂。

1章

不二製油のご紹介

2章

2024年度 連結業績

3章

中期経営計画(2025～2027年度)

4章

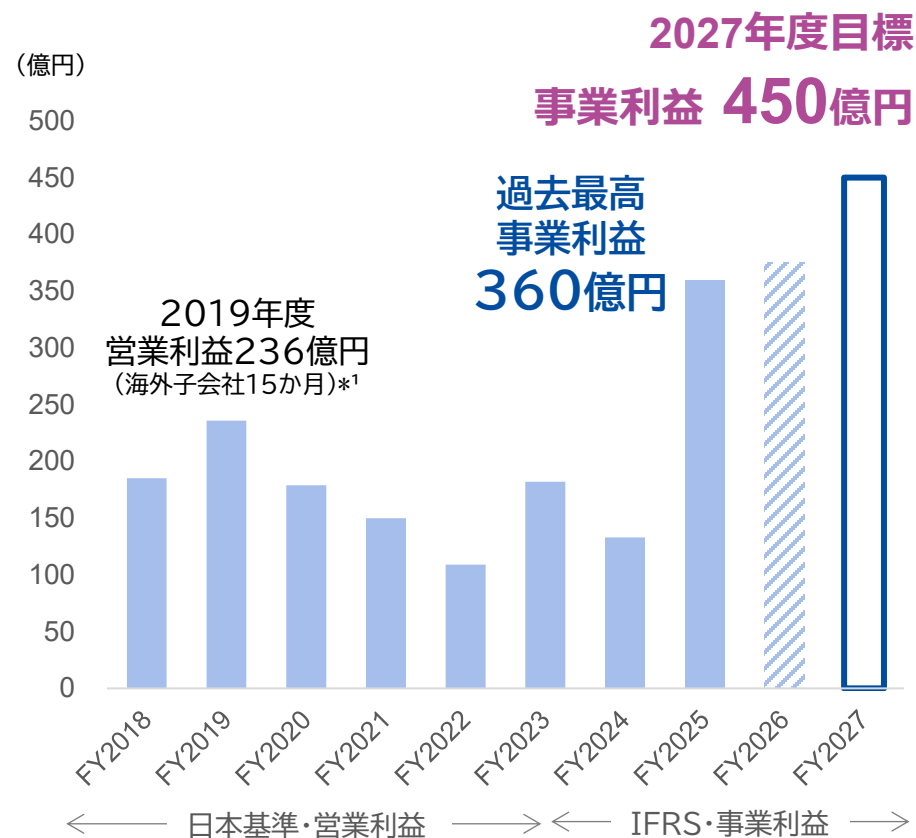
サステナブルな食の未来に向けて

中期経営計画 財務目標

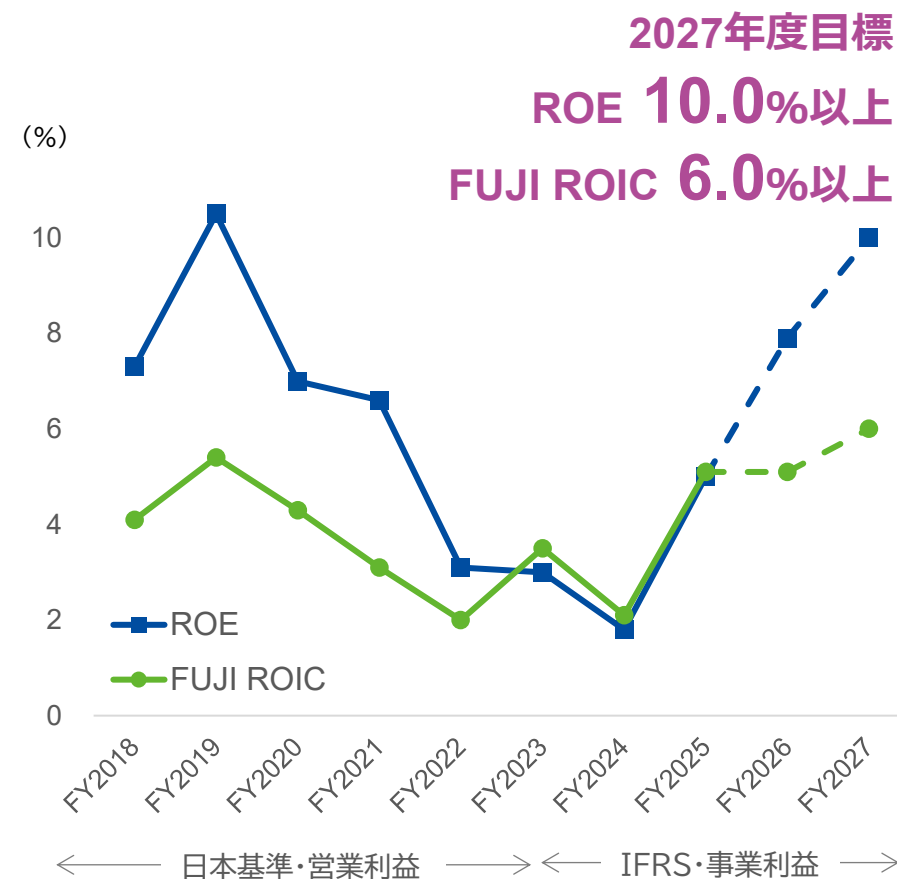
不二製油株式会社

2027年度に、事業利益450億円の達成を図る。

利益目標



ROE・FUJI ROIC目標



2019～2023年度実績は、日本基準の営業利益。2024年度実績、2025年度計画、2027年度計画はIFRSでの事業利益。

*1 2019年度は海外グループ会社19社の決算期の変更により、当該連結子会社は2019年1月1日から2020年3月31日までの15か月決算。

*2 2025年度よりIFRSを任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

*3 FUJI ROIC=税引後事業利益÷(運転資本+固定資産+持分法投資) 2020年度以前は、ROICにて記載。ROIC=営業利益×(1-法人税率)÷(有利子負債+自己資本)

コンパウンドチョコレート



業務用チョコレート事業

不二製油株式会社

価格競争力があり、幅広い用途で利用できるコンパウンドチョコレートの拡販を進める。

コンパウンドチョコレート

主な原材料



カカオの使用割合を抑え、コストダウンが可能

主な使用用途



機能性を付与し、幅広い用途での使用が可能

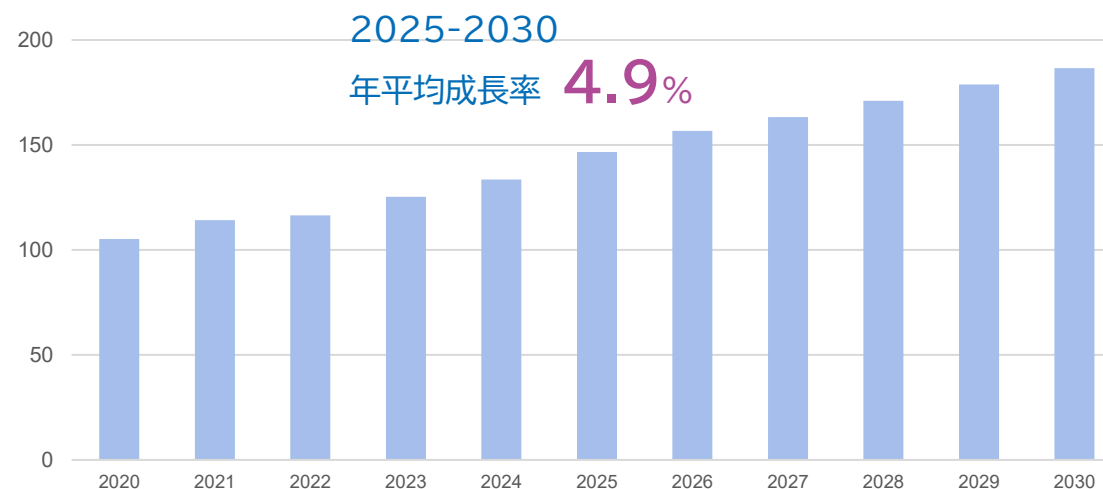
➡コンパウンドチョコレートの需要が増加

チョコレート菓子マーケット予測

人口増加、経済成長に伴い、チョコレート菓子の市場規模は拡大する見通し。

世界のチョコレート菓子市場

Unit: billion US\$



参照: Euromonitor Chocolate Confectionery 2026
Geography: world, category: chocolate confectionery
Data type: Retail Value RSP

コンパウンドチョコレート 設備投資を通じ、販売数量増加を狙う

不二製油株式会社

各拠点での設備投資を通じて供給能力を強化し、コンパウンドチョコレートの拡販を図る。

2026年度上期:日本

2026年5月より新工場が稼働。
機能性が高い新製品群の展開や
容器形態の拡充による
顧客の作業性改善など、
顧客ニーズに対応。



2026年度下期:米国

設備増強によるキャパシティ拡大、
安定生産体制の構築により
コンパウンド製品の展開を強化。



2025年度実績
販売数量*

98%

2024年度対比

2026年度予想
販売数量*

105%

2024年度対比

2027年度
中計目標

販売数量*

110%

2024年度対比

2025年度下期:ブラジル

第2工場の新ラインが稼働開始。
製品ラインナップ拡充により
高付加価値製品の展開を強化。



2026年度下期:欧州、豪州

各エリアで新設備が順次稼働予定。
コンパウンド製品の需要拡大に対応。

欧州



豪州



2027年度

中計目標達成に向けて
各エリアにおいて
新設日の稼働が本格化。

* 販売数量は、ブラマーのカカオ加工品を除き集計。

ブラマー買収からこれまで



業務用チョコレート事業

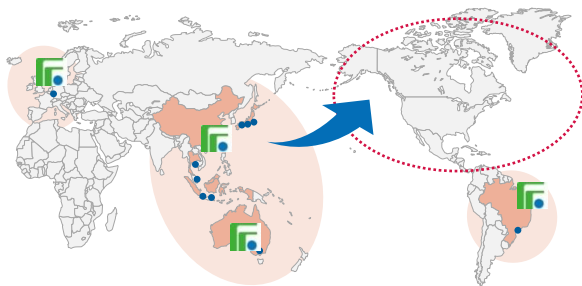
不二製油株式会社

世界最大のマーケットである米国への足掛かりとして、2019年にブラマーを買収。

買収目的

シナジー創出により、米国でコンパウンドチョコレートの成長を目指す。

単一国家で世界最大のチョコレート市場である北米へ事業展開



ブラマーの強み

- ・北米における幅広い顧客網
- ・業務用チョコレート市場での創業80年を超えるブランド

不二製油の強み

- ・工場の生産性
- ・油脂技術を活用したコンパウンドチョコレートの展開

2024年3月 構造改革

買収以降、外部環境の変化に柔軟に対応できず収益力が低下。

2024年3月に5か年計画の構造改革を打ち出し、課題への対応を加速。

構造改革の方針

1. シカゴ工場の閉鎖

2. カカオ加工事業の適正化

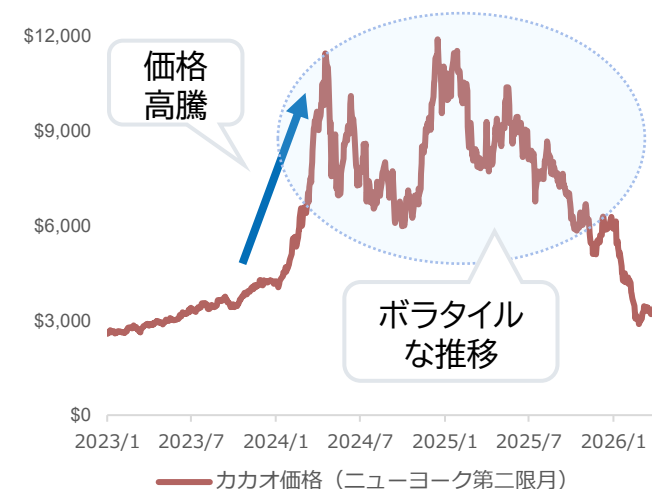
3. 差別化戦略の推進

2024年～2025年

カカオ価格の高騰による損失の発生や、チョコレート菓子の消費鈍化により、収益力が低下。

カカオ価格（2026年4月末まで）
ニューヨーク第二限月つなぎ足

出所：ICE
Futures U.S



ブラマー 今後の施策



業務用チョコレート事業

不二製油株式会社

リスクを低減し基礎収益力を改善するとともに、成長戦略の遂行を目指す。

基礎収益力の改善

- ✓ 構造改革計画は着実に進捗。
- ✓ カカオ価格高騰に伴い発生した損失は、リスク低減施策、販売価格改定が進み、2026年度への影響は限定的。
- ✓ 日本より営業・開発・生産の駐在員派遣を進め、ブラマーの販売体制拡充や生産性改善を推進。

コンパウンド製品の拡販

- ✓ カカオ価格の下落に伴う、チョコレート菓子の消費回復期待。
- ✓ 2026年度稼働予定のキャンベルフォード工場の新ラインでは、付加価値型コンパウンド製品を増産予定。
- ✓ 不二製油グループの油脂技術を活かした差別化戦略と課題解決型の提案を推進。



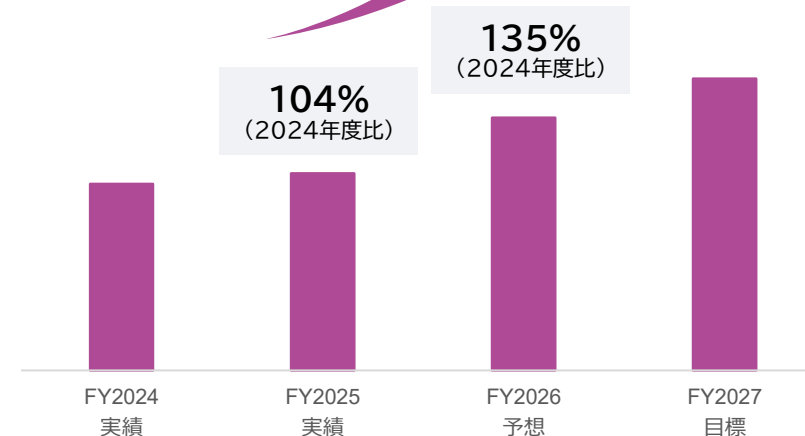
建設中のキャンベルフォード工場の新ライン(カナダ)

ブラマー コンパウンド製品 販売数量

新ライン稼働開始により
コンパウンド製品の拡販を加速

2027年度中計目標

コンパウンド製品
2027年度販売数量
150% (2024年度比)



1章

不二製油のご紹介

2章

2024年度 連結業績

3章

中期経営計画(2025～2027年度)

4章

サステナブルな食の未来に向けて

不二製油グループの価値創出

社会課題や顧客ニーズの解決を通じて、収益を創造し、企業価値の持続的な向上を図る。

不二製油株式会社

サステナブルな食の未来

不二製油も含めた
バリューチェーン全体の持続的な成長

不二製油グループ
のビジネス

植物性素材で、人と地球の課題解決

地球・社会の主な課題

世界人口増加と
食資源の偏在化

健康寿命の延伸

ステークホルダーの主な課題



農産地

生態系変化への対応
労働者の人権課題
コミュニティとの共生



顧客

原材料の安定調達
フードロス、食品安全
人手不足・人件費増



消費者

「おいしい」多様な
選択肢、健康増進

ネイチャー
ポジティブ

サーキュラー
エコノミー

カーボン
ニュートラル

サステナブルな食の未来に向けて

不二製油株式会社

カカオ豆由来の原料不使用の
ミルクチョコレートタイプ



動物脂のような甘みとコクを
持つ新ブランド「Melavio」



動物性食品特有の風味や
満足感を表現した植物性ダシ
「MIRA-Dashi®」





不二製油株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、予想の前提、予測を含んで記載しており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。また、実際の業績は、今後様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。

